

能登半島地震（能登町）における 発災後のトイレ事情調査

2025年 11月 12日

特定非営利活動法人日本トイレ研究所（災害用トイレ普及・推進チーム）

Labo.

日本トイレ研究所

dtat

災害用トイレ普及・推進チーム
disaster toilet assistance team

調査概要

- 調査目的 : 被災者のトイレ事情を把握することで、災害時のトイレ環境の課題を明確にする
- 調査対象 : 能登町内の全仮設住宅入居世帯（18団地571世帯（2024年12月時点））
- 調査方法 : 仮設住宅にポスティングし、郵送およびFAX で回収
- 調査期間 : 2025年9月24日（水）～10月10日（金）
- 回答数 : 246サンプル
- 実施主体 : 特定非営利活動法人日本トイレ研究所（災害用トイレ普及・推進チーム）
- 協力 : 能登町

※本調査では、小数第2位を四捨五入しています。そのため、数字の合計が100%とならない場合があります。

本件に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

E-mail saigai@toilet.or.jp

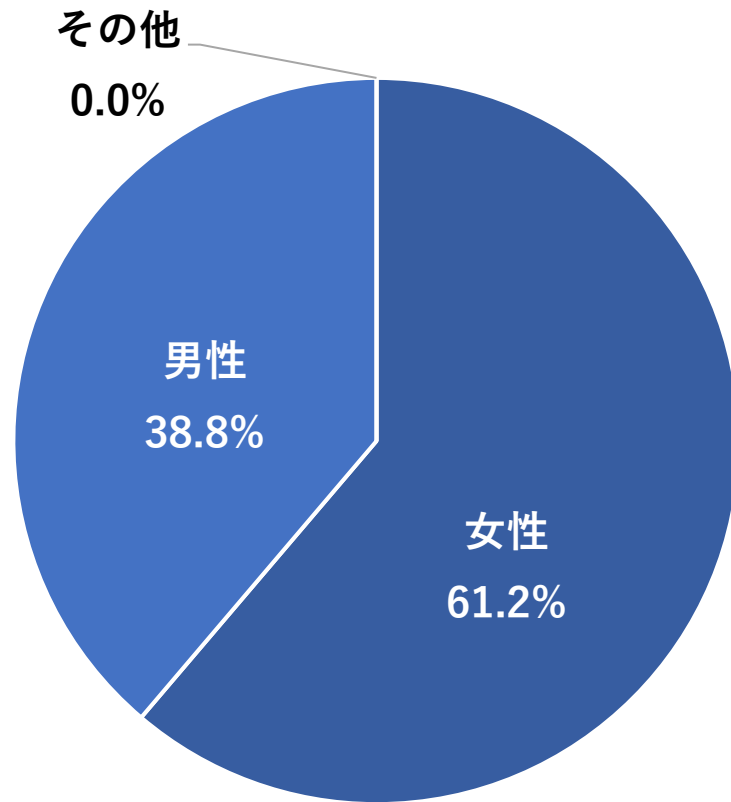
TEL 03-6809-1308

FAX 03-6809-1412

本資料を転載・引用される際は上記までご連絡の上、クレジット表記をお願いいたします。

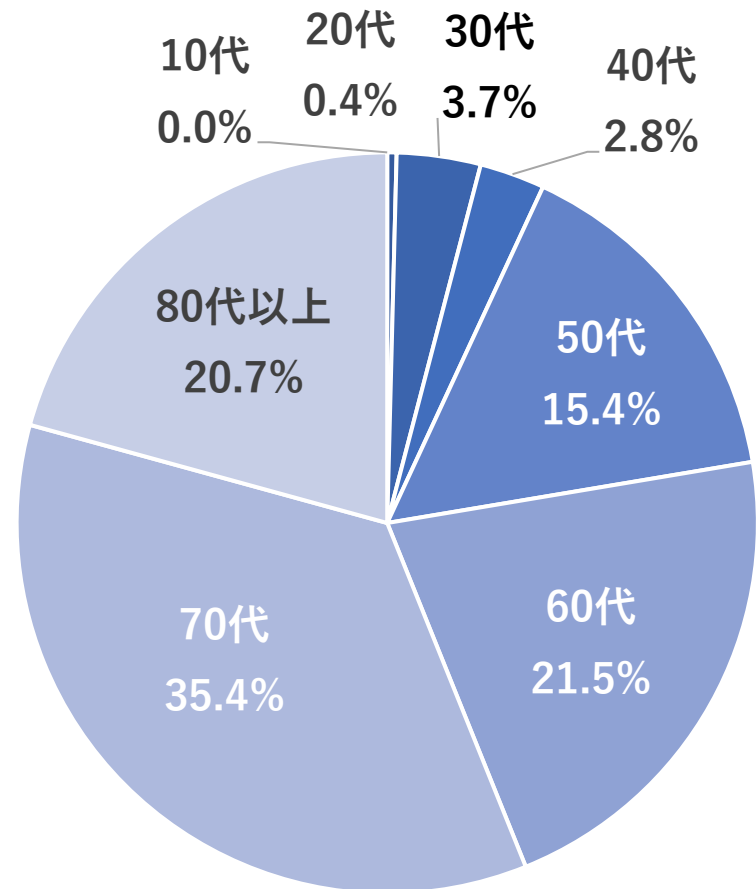
回答者の性別と年代

性別



n=245

年齢



n=246

結果概要

調査結果のうち、主なものを以下に示す。

地震発生後、最初にトイレに行きたいと感じた時間(P.04)

発災から3時間以内と回答した人は54.7%であり、6時間まで含めると88.3%になる

避難生活の初期において、困ったこと(P.07)

最も多いのは「トイレ」69.8%で、次に「眠れる環境」58.3%、「食事」50.0%、「寒さ」43.4%、「飲み物」29.8%、「プライバシー」29.3%である

避難所に設置されたトイレ車両（トイレカー、トイレトレーラー、トイレコンテナ）の利用環境について気になったこと(P.08)

最も多いのは「トイレの個室数が少ない」44.5%、次に「トイレまでが遠い」32.9%、「トイレの中が狭い」30.3%、「床・階段が滑りやすい」30.3%、「トイレの段差や階段が怖い」27.7%である

仮設トイレやトイレ車両が来た日(P.09)

初日に到着したのは7.6%、3日以内16.5%、7日以内25.9%である

トイレごみ（使用済み携帯トイレなど）の回収が実施された日(P.10)

初日に回収できたのは8.1%、2～3日以内10.6%、4～7日以内18.0%である

避難所に設置された仮設トイレやトイレ車両の使用禁止(P.11)

「よくあった」と「ときどきあった」をあわせると43.0%である

避難所でのトイレ我慢(P.13)

「ときどきあった」63.2%と「一度だけあった」2.4%をあわせると65.6%である

トイレに行く回数を減らすために水分摂取を控えることができましたか？(P.15)

「ときどきあった」53.3%と「一度だけあった」2.6%をあわせると55.9%である

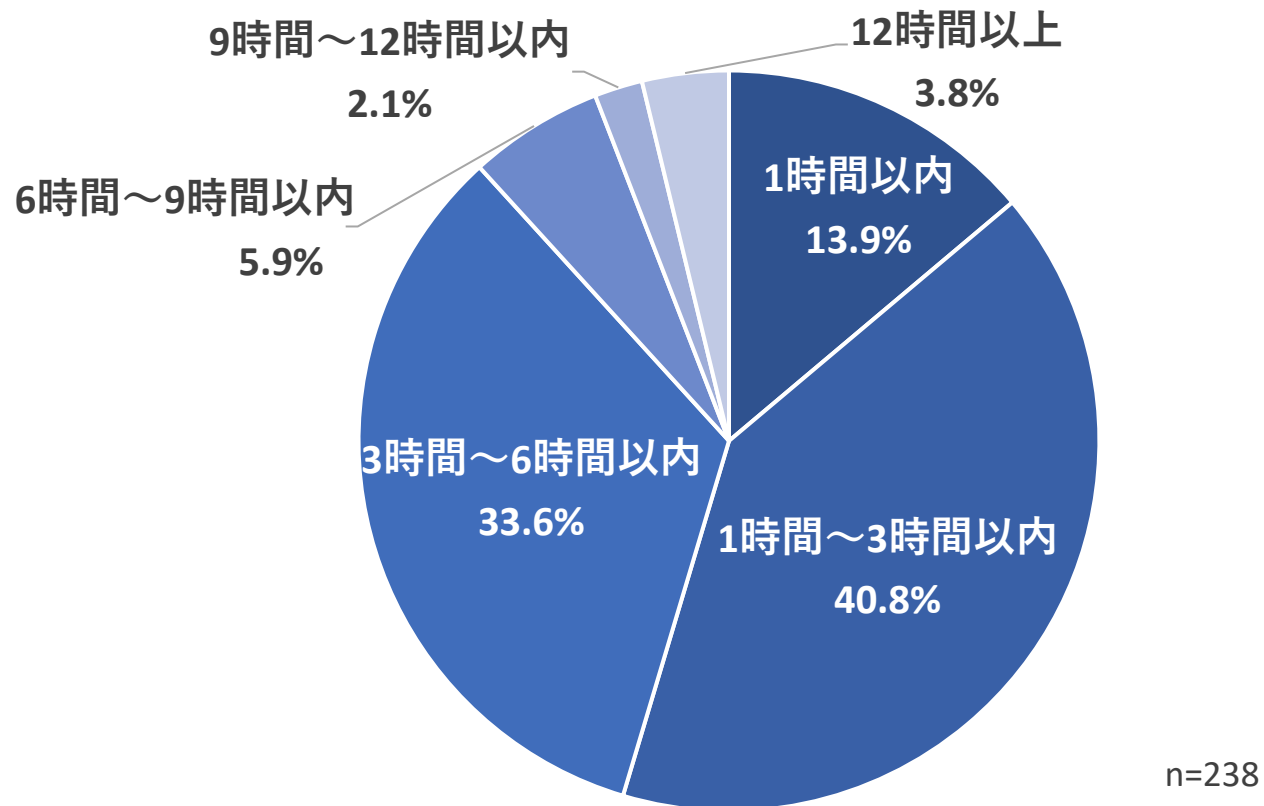
トイレが原因で水分摂取を控えたりすることで、体調を崩す(P.16)

「ときどきあった」22.2%と「一度だけあった」7.2%をあわせると29.4%である

最初にトイレに行きたいと感じた時間

Q1. 地震発生後、最初にトイレに行きたいと感じた時間はどのくらいですか？（SA）

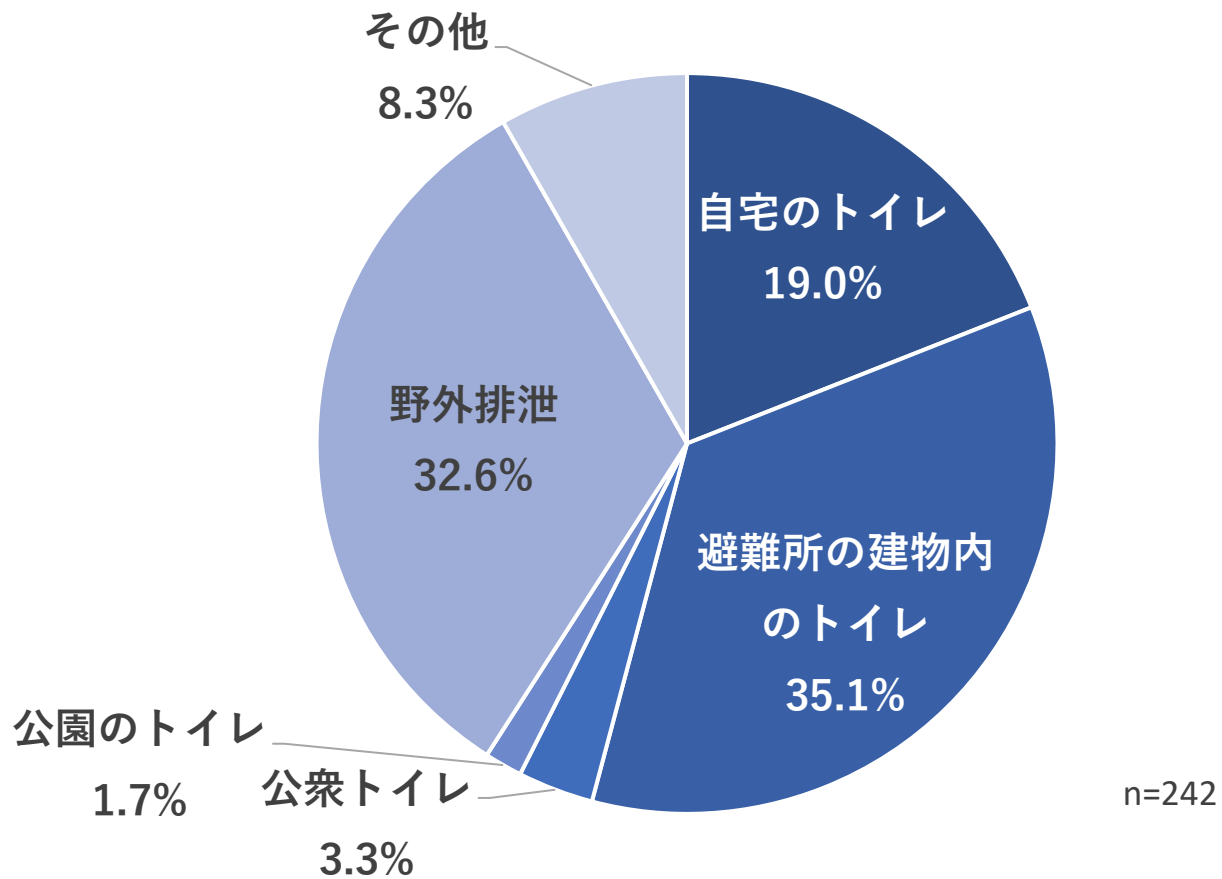
- ・ 発災から3時間以内と回答した人は54.7%であり、6時間まで含めると88.3%になる



最初に利用したトイレ

Q2. 地震発生後は、どこのトイレを最初に利用されましたか？

・最も多いのは「避難所の建物内のトイレ」35.1%、次に「野外排泄」32.6%である

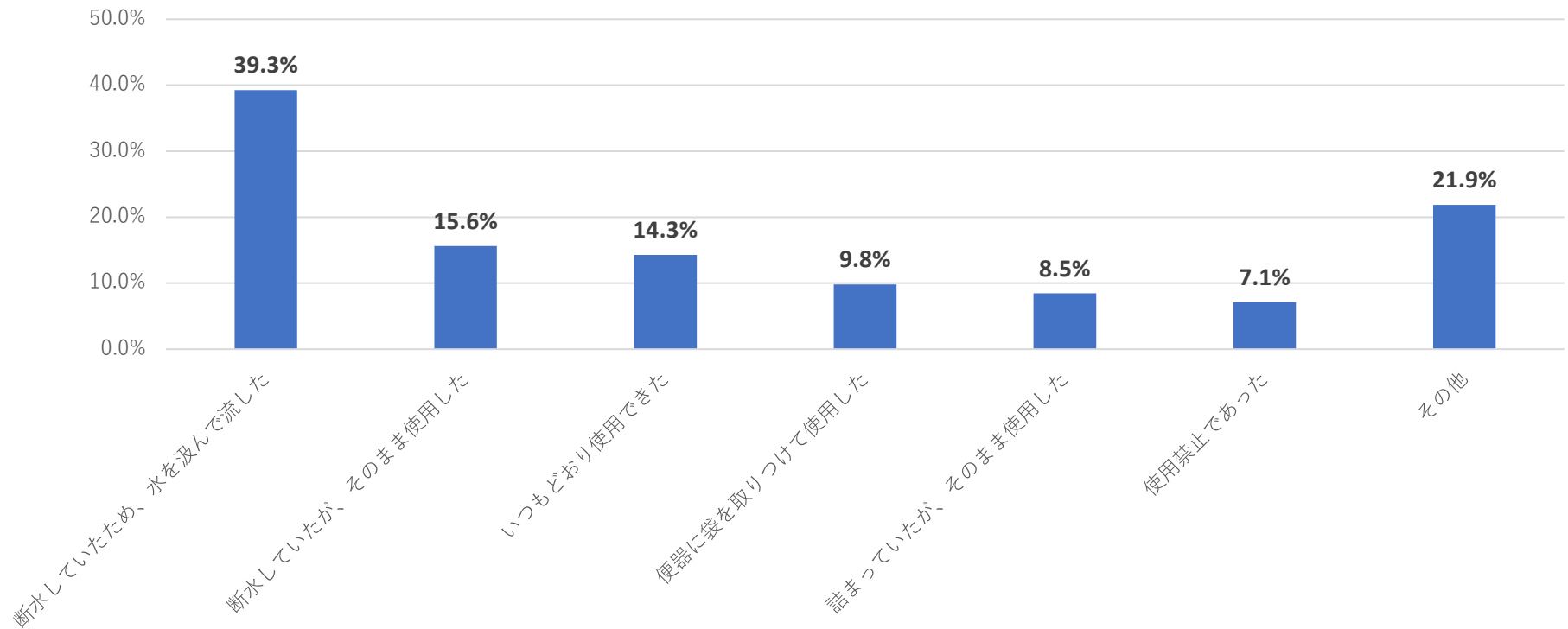


発災後のトイレの状況

Q3. 「Q2.」で回答いただいたトイレの状況を教えてください（MA）

- 最も多いのは「断水していたため、水を汲んで流した」39.3%で、次に「断水していたが、そのまま使用した」15.6%、「いつもどおり使用できた」14.3%である

n=224

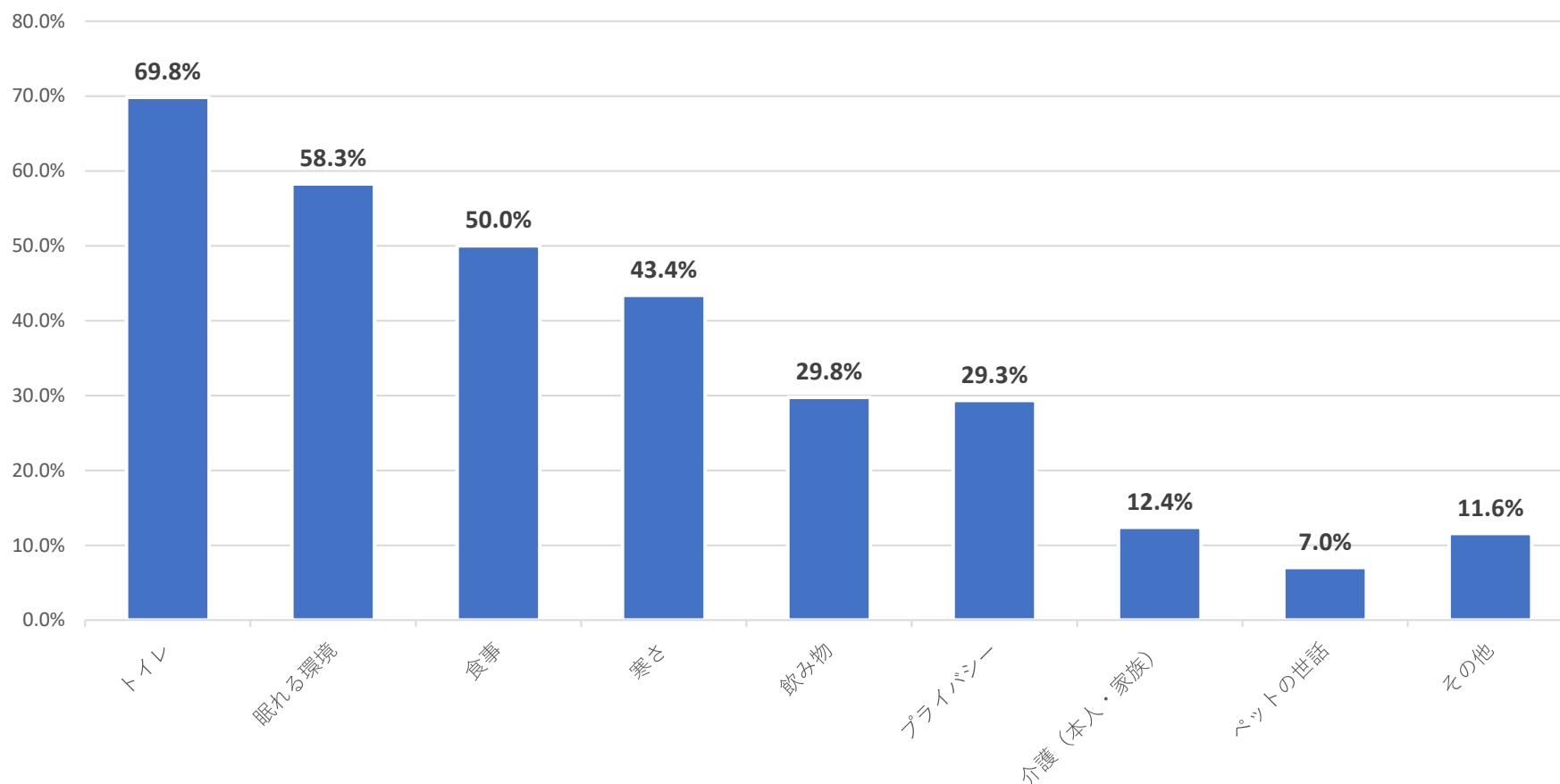


避難生活で困ったこと

Q4. 避難生活の初期において、最も困ったことは何ですか？（MA）

- 最も多いのは「トイレ」69.8%で、次に「眠れる環境」58.3%、「食事」50.0%、「寒さ」43.4%、「飲み物」29.8%、「プライバシー」29.3%である

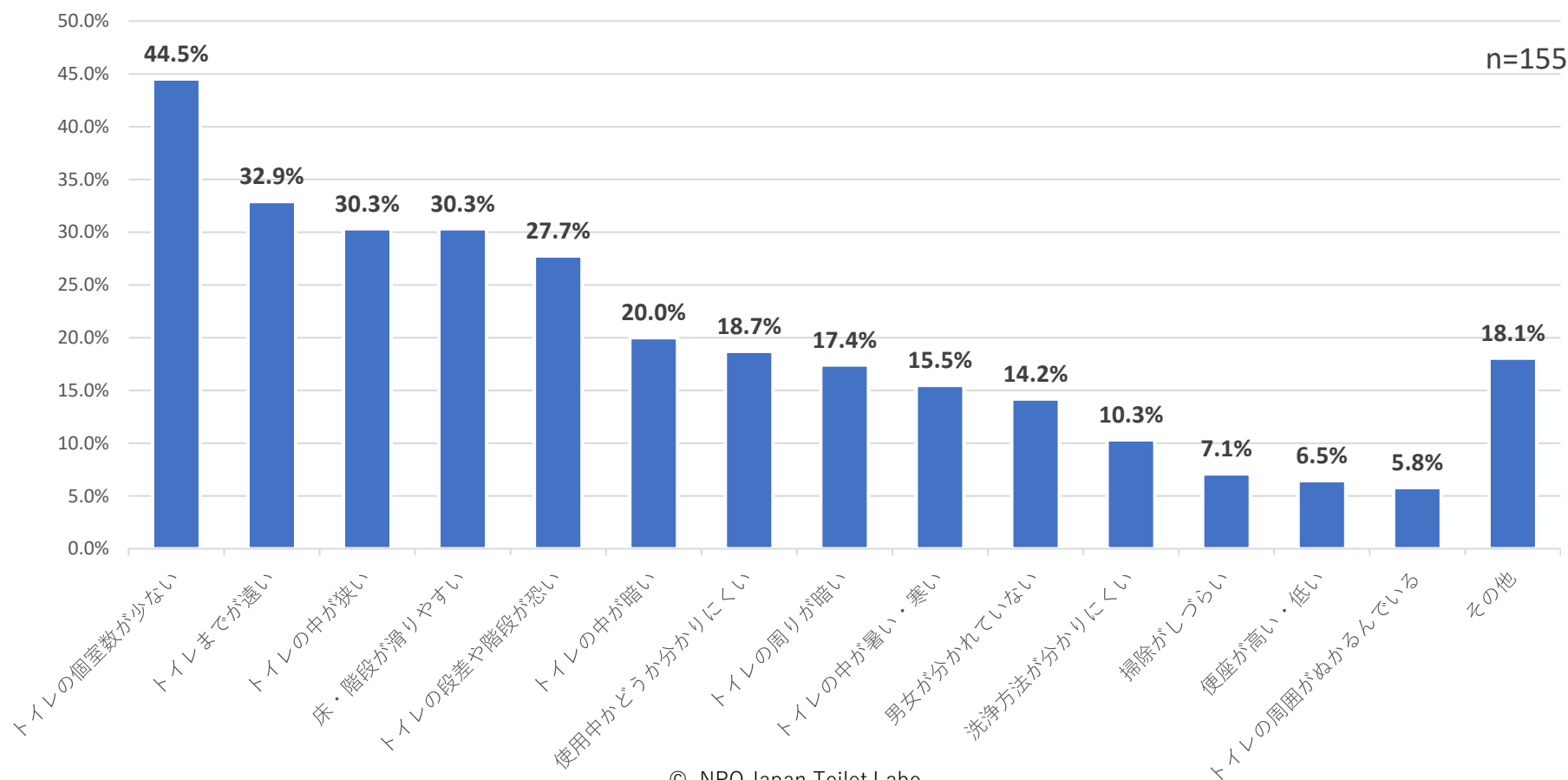
n=242



トイレ車両の利用環境で気になったこと

Q5.避難所に設置されたトイレ車両（トイレカー、トイレトレーラー、トイレコンテナ）の利用環境について気になったことは何ですか？（MA）

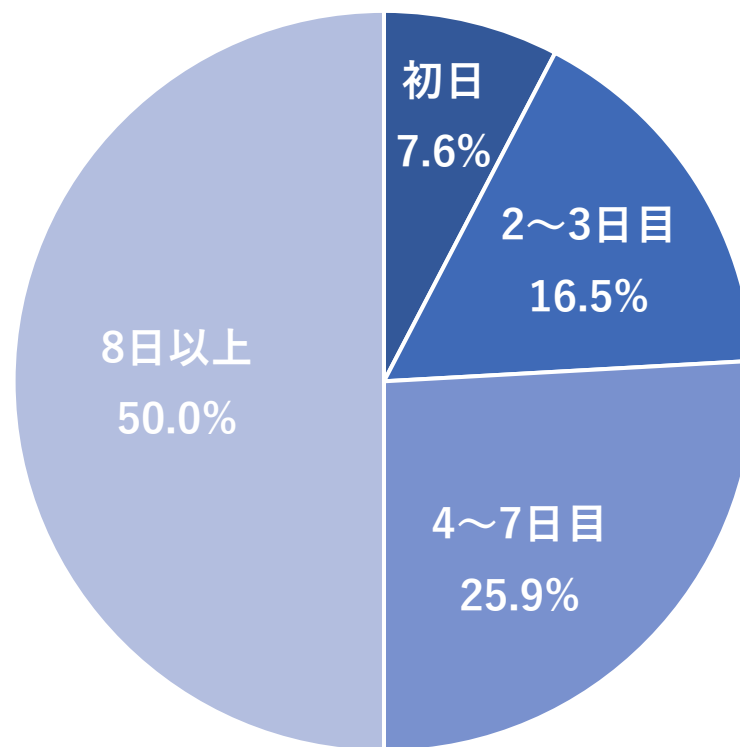
- 最も多いのは「トイレの個室数が少ない」44.5%、次に「トイレまでが遠い」32.9%、「トイレの中が狭い」30.3%、「床・階段が滑りやすい」30.3%、「トイレの段差や階段が怖い」27.7%である



仮設トイレやトイレ車両の到着日

Q6. 仮設トイレやトイレ車両が来たのは、発災後何日目ですか？（SA）

- 初日に到着したのは7.6%、2～3日以内16.5%、4～7日以内25.9%である

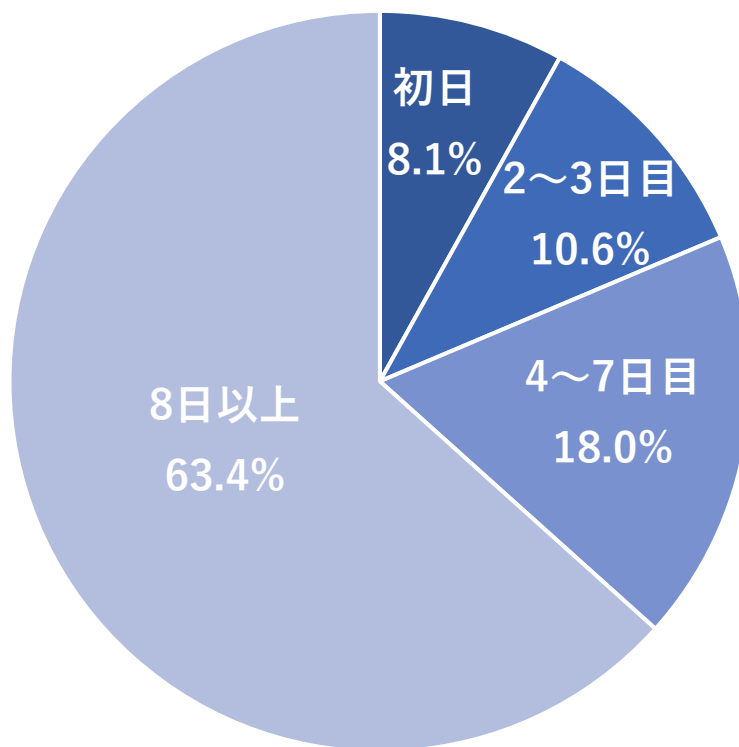


n=168

トイレごみの回収

Q7. トイレごみ（使用済み携帯トイレなど）の回収が実施されたのは発災後何日目ですか？（SA）

- 初日に回収できたのは8.1%、2～3日以内10.6%、4～7日以内18.0%である

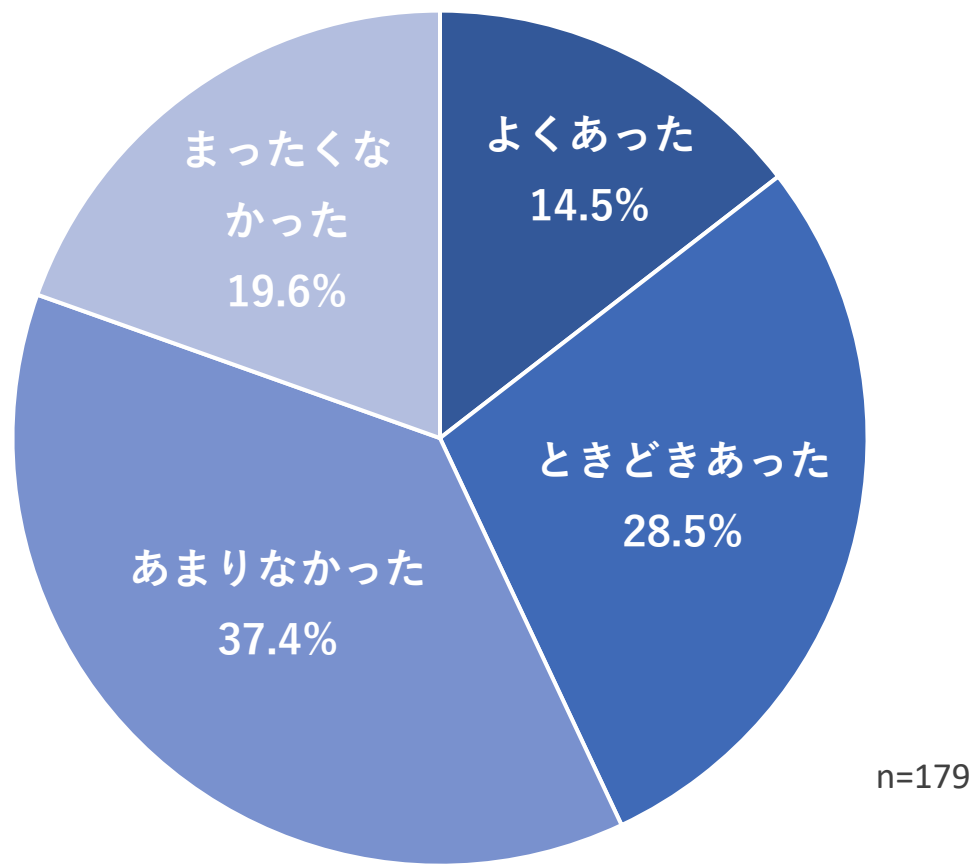


n=161

使用禁止のトイレ

Q8. 避難所に設置された仮設トイレやトイレ車両について、し尿の汲み取りが間に合わずに使用禁止になっていたことはありましたか？（SA）

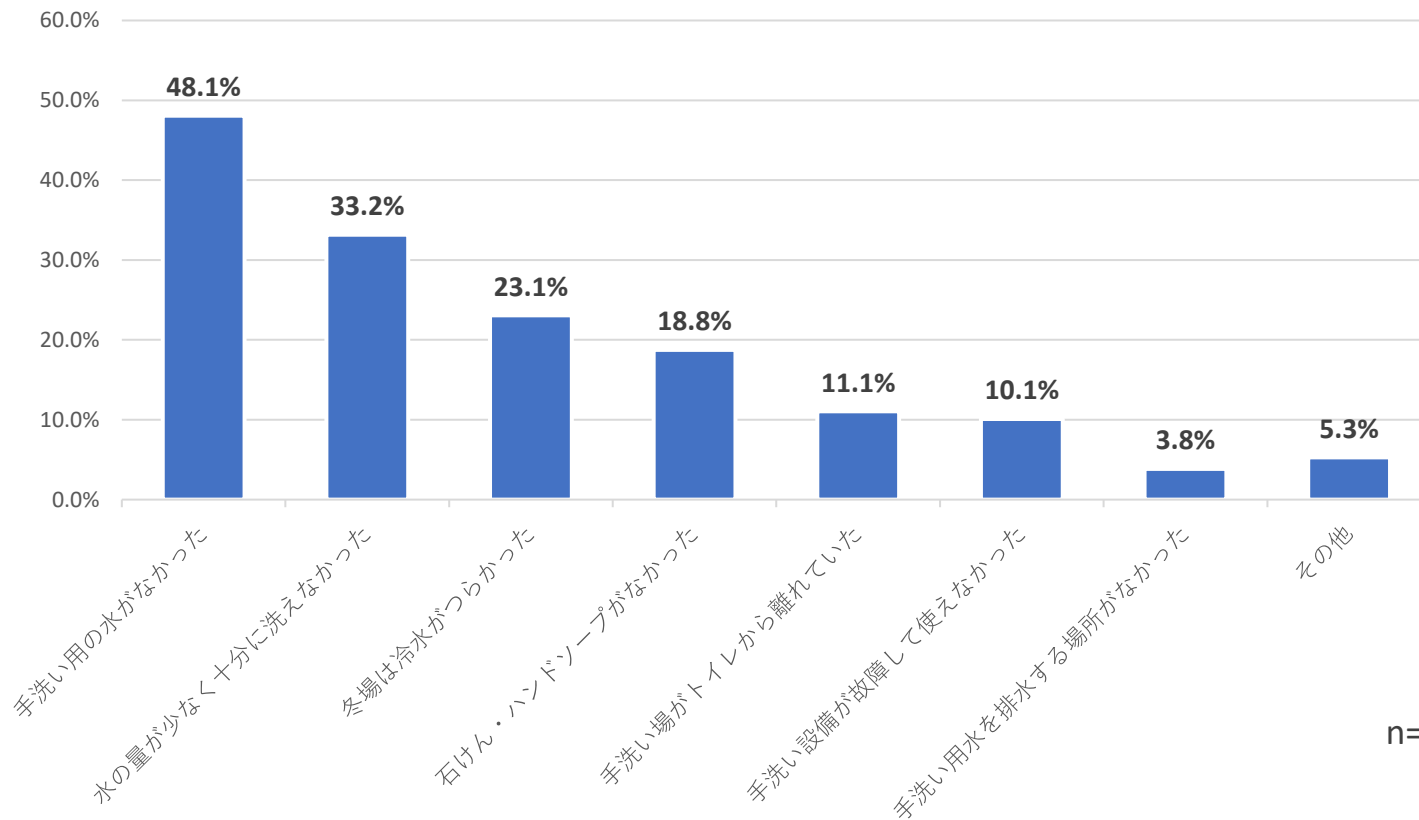
- 「よくあった」と「ときどきあった」をあわせると43.0%である



手洗いで困ったこと

Q9. 屋外のトイレ後の手洗いで困ったことは何ですか？（MA）

- 最も多いのは「手洗い用の水がなかった」48.1%、次に「水の量が少なく十分に洗えなかった」33.2%、「冬場は冷水がつからかった」23.1%である

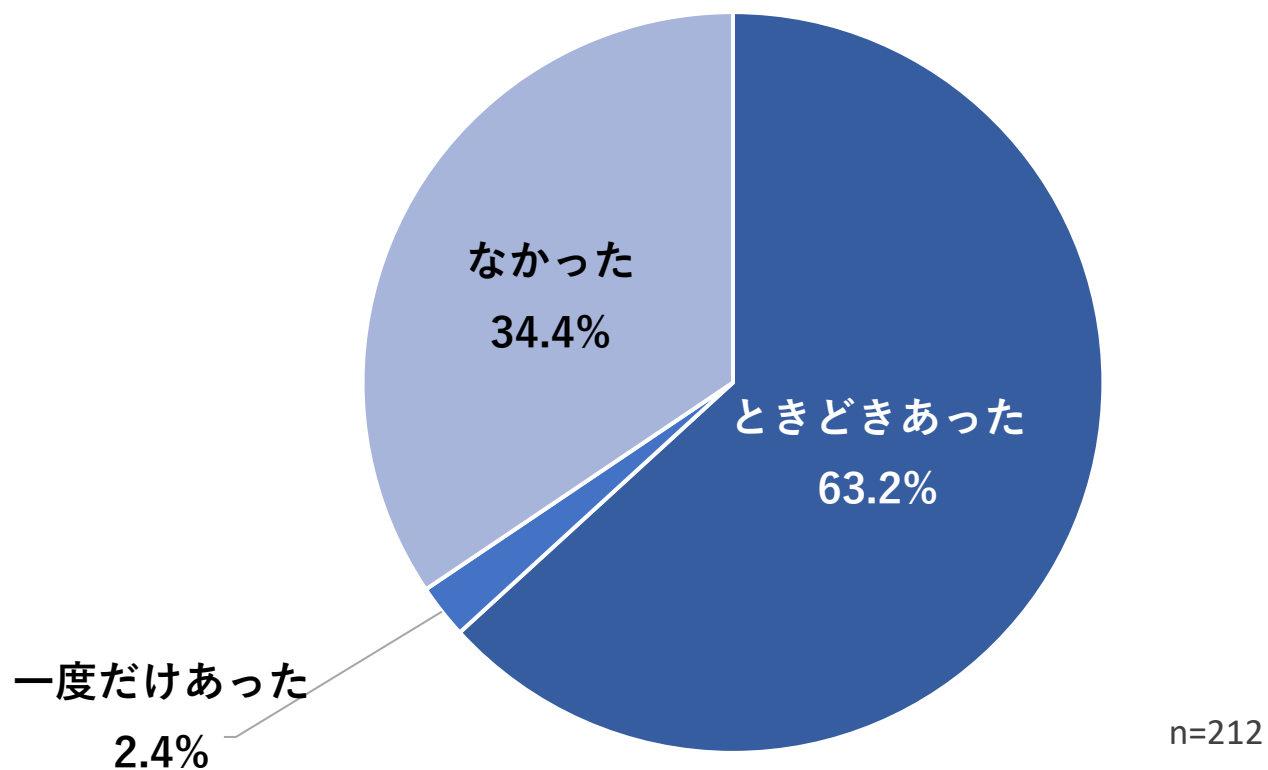


n=208

トイレの我慢

Q10. 避難所でトイレを我慢したことがありましたか？ (SA)

- 「ときどきあった」63.2%と「一度だけあった」2.4%をあわせると65.6%である



トイレを我慢した理由

Q11. 「Q10」で「ときどきあった」もしくは「一度だけあった」と回答された方にお聞きします。
トイレを我慢した理由を教えてください。

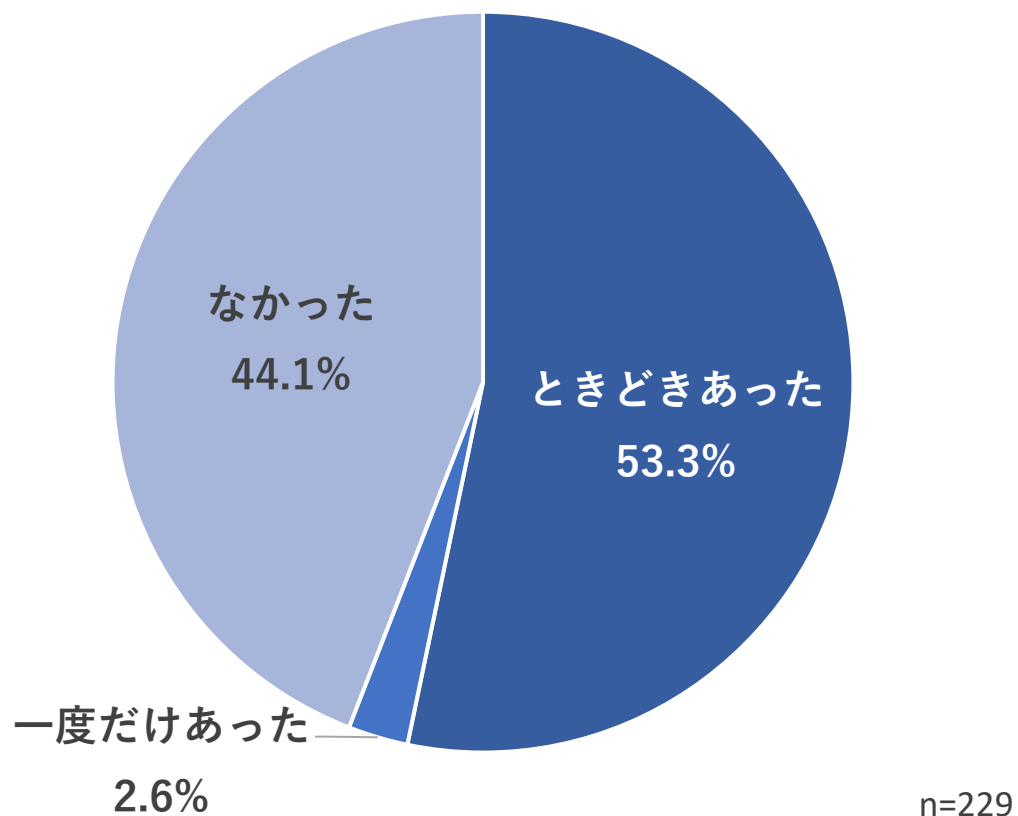
自由記述の内容を分類した結果を以下に示す。

- 最も多いのは「混雑している・トイレの数が少ない」で、次に「汚れている・臭い・不衛生」、「断水で流せない・水が不足している」である。
- 混雑している・トイレの数が少ない：44
- 汚れている・臭い・不衛生：35
- 断水で流せない・水が不足している：16
- トイレまで遠い：14
- 寒い・暗い・怖い：12
- 故障等で使用禁止になっている：6
- 人目が気になる・落ち着かない：5
- トイレの場所がわかりにくい：1
- 子連れや障害者等に配慮されていない：1
- 和式で使えない、非水洗で使いづらい：1
- その他：17

水分を控えたこと

Q12. トイレに行く回数を減らすために水分摂取を控えることがありましたか？ (SA)

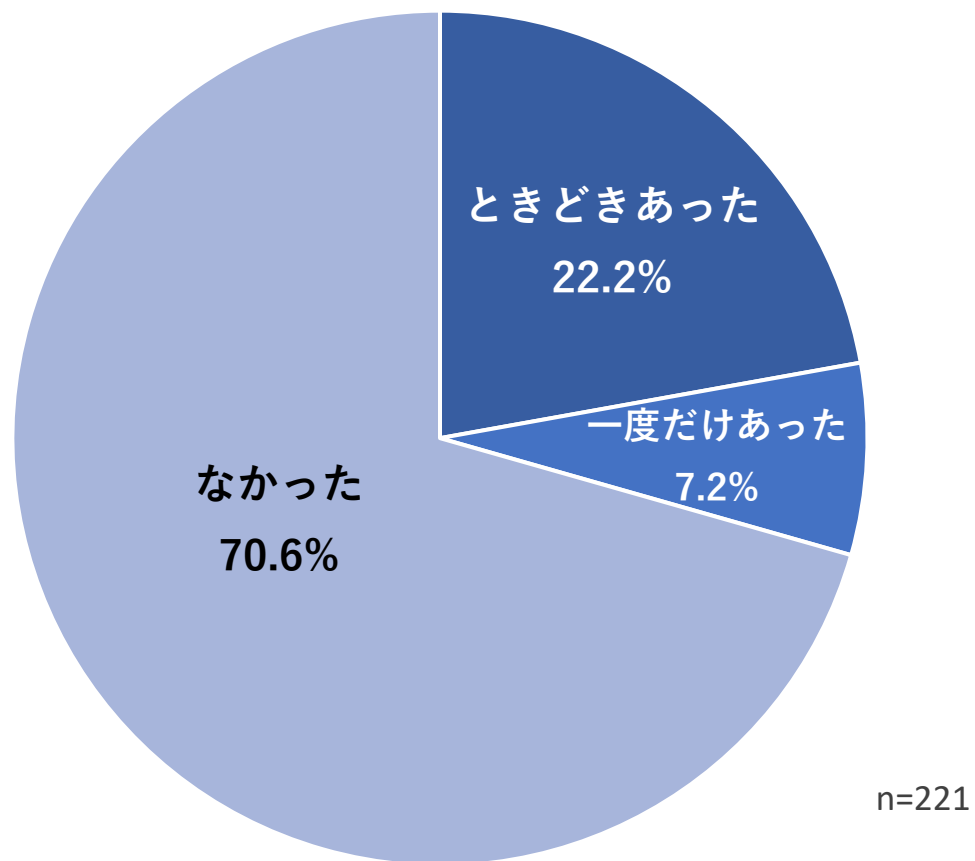
- 「ときどきあった」 53.3%と「一度だけあった」 2.6%をあわせると55.9%である



トイレが原因で体調を崩したこと

Q13. トイレを我慢したり、トイレに行く回数を減らすために水分摂取を控えたりすることで、体調を崩したことはありましたか？ (SA)

- 「ときどきあった」 22.2%と「一度だけあった」 7.2%をあわせると 29.4%である





日本トイレ研究所は「トイレ」を通して社会をより良い方向へ変えていくことをコンセプトに活動しているNPO団体です。

阪神淡路大震災を契機として、災害時のトイレ問題に本格的に取り組んでいます。

自治体と共同でフォーラムの開催や災害時のトイレに関するアンケート調査・被災地におけるトイレの調査の実施、また「災害時トイレ衛生管理講習会」開催と「防災トイレアドバイザー」養成といった人材育成、ポスター・小冊子の作成等の啓発活動を行っています。



日本トイレ研究所は2014年、地方公共団体のトイレ対策および備蓄の推進を目的に災害用トイレ普及・推進チームを立ち上げました。

災害用トイレの開発や販売に携わる企業、行政や専門家と連携しながら災害用トイレ・衛生製品の普及とトイレ対策の推進に取り組んでいます。

災害用トイレガイド (www.toilet.or.jp/toilet-guide/) では、過去の災害におけるトイレ事情アーカイブ、災害用トイレの選び方、災害用トイレの性能など、様々な情報を発信しています。